

8 水の文化と歴史

(1) 水に関わる伝統行事

県内各地に、水に関わりを持つ神社や祭りなどがある。地域に根ざした文化として、まちづくりや水環境保全意識の高揚のため、保存、継承していくことが重要である。

表2-4 水に関わる伝統行事

名称	所在地	概要
蛇祭り (県選択民俗文化財)	小山市間々田	「蛇祭り」は、釈迦が誕生したとき、八大竜王が天から竜水を降らしたという仏教説話から起こったとされ、田植えを前にほどよい雨風を神仏に願い、あわせて悪病を追い払う行事として旧暦の4月8日に行われていたが、いつからか「5月5日」の子供の日に行われるようになり県の無形民俗文化財にも指定されている。
大蛇引き	真岡市南中里	8月8日に行われる、雨乞いや五穀豊穡、災厄除けを願った祭りで、鬼怒川に自生するシバ草と稲わらで編まれた、長さ30m・太さ20cmにもなる大蛇を、子どもたちが引き回すもの。
加茂神社 (ナルイサン)	南那須町月次	加茂神社は、雷よけ、雨乞いの信仰で知られる。神事、巫女舞の奉納、竹の先にテープの束をつけた梵天の奉納が行われる。また、ここでは、日照りが続くと農民が神社の湧き水を汲み、水田にまいて雨を待つ風習もある。
百八灯流し	栃木市	108の煩惱を水に流すための仏教行事として、太鼓・ほら貝・提灯を持った山伏、神官など十数人が御新船に乗り込み、ろうそくに火をつけ町境まで川を上り神事を行うもので、毎年8月6日に行われる。
大悲の滝	栃木市	満願寺にある落差約8mの滝で、寒中でも修業僧や参詣者の入滝の行が行われている。
栃窪の天念仏 (国選択無形民俗文化財)	鹿沼市栃窪	風雨順調・五穀豊穡を祈願する農民信仰に根ざした行事で、仏式では「天念仏」、神式では「天祭」といわれる。栃窪の天念仏は、この種のものとしては最も初原的形態を伝える貴重な行事で、安永9年に木喰上人がこの地を訪れた時に伝えられたといわれる。
下野の水車風俗 (国選択無形民俗文化財)	県内各地	河川に恵まれた本県には、いろいろな種類の水車が生産業活動に使用されていた。特に、今市市は杉線香の一大生産地であり、原料の杉葉の製粉に水車が活躍している。



蛇祭り

(2) 足尾銅山／渡良瀬遊水地

足尾銅山では、1600年代から銅の採掘が行われていたが、明治期に入り山火事や生産量増大に伴う森林の乱伐、煙害により、周辺の森林が裸地化した。既に銅山は休廃止鉱山となっているが、今なお坑廃水処理が続けられ、足尾地区の荒廃した森林の復旧作業が進められている。

渡良瀬遊水地の設置により水没した赤麻沼付近にある谷中村（現在の藤岡町）は、周辺の地域より一段と低くなっており、たびたび大規模な洪水に見舞われていた。また、足尾銅山から流れてくる鉱毒による被害が大きな社会問題となっていたことから、利根川、渡良瀬川、巴波川の合流地点を遊水地化する計画が立てられ、谷中村の約380世帯、2,500人が移転の対象となった。一部の人は移転に強く反対し土地収用法が適用されるなど、人々の犠牲と協力によって遊水地化が進められた。流域の人々の生命と財産を幾多の洪水の危険から守ってきた一方で、その歩みは地域にとっての重い歴史として、語り伝えられている。



渡良瀬遊水地

(3) 水に関わる産業

伝統産業としては、手漉き和紙や染め物などが水との関連が深い。本県では烏山和紙や益子町の草木染などが挙げられる。

水と関わりの深い製造業としては、豆腐や醤油、ビール製造などが挙げられる。また、日本酒の酒蔵は県下の各地に分布し、40箇所余りで操業している。